

（１）大学・学科の設置理念

①大学

「立学の精神」

本学院の教育は、建国の理想に遵い、平和的な国家及び社会の形成者として、高い知性と善美な情操と高雅な徳性とを兼ね具えた有為な女性を育成する。特に女子総合学院の特質に鑑み、一貫教育の方針を堅持し、わが国女性の伝統的美風を尊重して、その民族的使命を自覚するとともに、個性豊かな文化を創造して、新日本の建設に貢献し得るべき女性の養成を期しその使命達成のために学園を挙げてその力を致す。

②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

環境共生学科は、人間を含む自然の事物・事象を幅広い視点から捉え、生命現象や物質を理解するための生物・化学を中心に、分析のための物理学、環境への応用に必要な地学の各領域を総合的に学ぶ学科である。分析・解析技術に裏打ちされた論理的な思考と、積極的な実践力および協業する力を養成することにより、環境の視点にたつて社会に貢献できる人材を育成することを教育目標としている。環境や生物が直面している課題を解決する方法論を選択できる幅広い視野を持つための学問を履修し、多面的な問題解決能力をもつ理科教員を育成する。一方で環境課題は長期的かつ広範囲な対応が必要であり、自ら取り組むだけでなく教育者として後進の指導にあたり、対話を通して課題に対応できる教員の養成を目指している。

（２）教員養成に対する目標・計画

①大学

(1)学院の立学の精神に立脚した教職実践力を体し、グローバル化する社会の新しい要請に応えるとともに日本国憲法・教育基本法・学校教育法等に規定されている教育理念とそのシステムを実践的に支え、次代を担う子ども達にその自立へ向けて“自他ともに学びあい・生かしあう力”を育むことのできる「幼稚園・保育所（園）・認定こども園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教員（保育士・保育教諭を含む）・栄養教諭」の養成を社会的使命として遂行し、人・家庭・社会に貢献できる人材を育成する。

(2)学院立学の精神に立脚した教職実践力とは、“高い知性”と“善美な情操”と“高雅な徳性”とを兼ね備え、これらの資質・能力を幼児・児童・生徒等に対して、それぞれの学校教育段階において創造的に育むことのできる教員又は保育士としての実践力である。

(3)上記(1)(2)に示す本学教員養成の理念の具現化へ向けて、学院立学の精神はじめ教育綱領・教育目標・教育推進宣言について理解を深めるとともに、自立した教員を送り出すべく、女子総合学院の特質を生かし、“未来を担う子ども達の主体性・論理性・実行力を培う”教員・保育士の養成を「一貫して」推進する。その実質的具現化のため、これらの養成に携わる全教職員は、一致団結して改革・改善に取り組む。

②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

環境共生学科の教育課程は、「冒険・発見・学び・発信」を中心に据え、未知の環境課題を探す冒険から始めて、発見することで課題解決の方法論を模索し、そのための学問を習得することで理解を深め、発信することで発展的・持続的な課題解決につなげるプロジェクトを軸とした体系を取る。

中学校および高校教諭理科免許状を取得しようとする者は、本学科における学習の目的と目標を十分に理解し、環境共生学および関連領域に関する高度で先端的な知識を身につけ、プロジェクトを通して習得した課題解決のためのプロセスを学校教育に実践的に活用する方法について主体的に考察することが期待

される。

そのためにまず1年次に「フィールド・環境施設実習」において環境問題に触れつつ「環境共生学入門」にて教職の意義や学校教育の目的について理解することで、教職課程を履修する学習設計を立案する。基礎科目・専門科目を通して、学問的視点に加えて学校教育における実践を念頭に置いて、環境課題を教材として扱う方法論や問題点を理解する。環境の学問体系は幅広いため、深く学ぶ分野以外でも基礎科目を中心に様々な知識と技術を習得し、教育における課題解決のための適応力を養う。地域への情報発信および後進の指導を通してコミュニケーション能力を育成することで教育の意義を実感する。

（３）認定を受けようとする課程の設置趣旨（学科等ごとに校種・免許教科別に記載）

環境共生学科では、自然と人間を含む環境について体系的に深く理解すると同時に、存在・潜在する諸問題を解決するための技術を学び、立場を乗り越え協業するコミュニケーション能力を養い、共生するための課題解決を目指す。本学科が準備する教育課程は、環境という理科の総合的な課題に立ち向かうために必要な知識・技術・情報発信の中で役割を果たせる教員を養成することができるものである。自ら課題を発見して、問題点を論理的に組み直し、必要な学問・技術を習得することで解決への糸口を捉え、発信することで次につなげる、というサイクルを「フィールド・環境施設実習」から「社会連携プロジェクトⅠ・Ⅱ」で一度経験し、卒業研究において別の課題で２サイクル目を経験することで培われる。

①中学校教諭一種（理科）

中学校教諭一種（理科）課程にあつては、環境管理技術、エネルギー・資源・化学物質の利用、生物工学に渡る教育内容により、物理・化学・生物・地学分野のそれぞれに対応する基礎的知識および資質を養成する。自らも主体的に次世代への発信を伴う課題解決に取り組むことで、生活と学問のつながりを理解し、学習者に主体的な馬奈木を促すことができる教育実践者の育成を目指す。

②高等学校教諭一種（理科）

高等学校教諭一種（理科）課程においては、学問を習得する中で、世界における日本独自の環境問題を認識し、一方で日本の環境の優位性を発展させられるような課題に取り組むための、主体的・対話的な深い学びを実践しうる人材の育成を目指す。

様式第7号イ

I. 教職課程の運営に係る全学的組織及び各学科等の組織の状況

(1) 各組織の概要

①

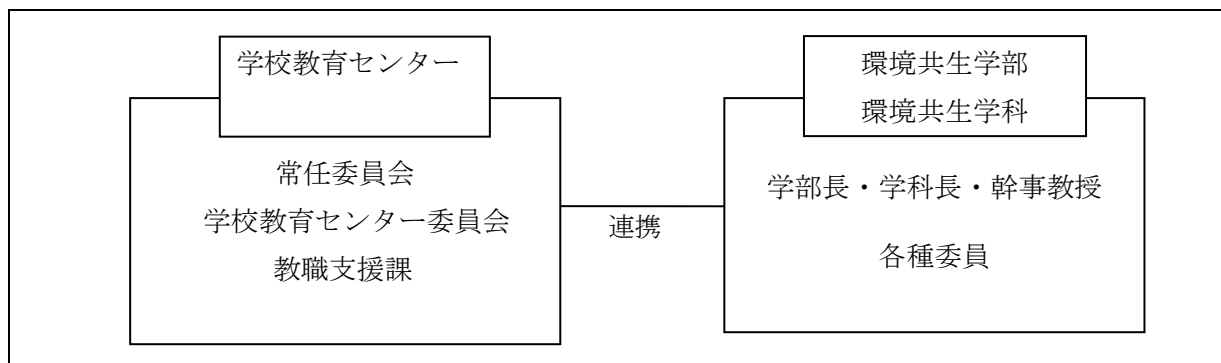
組織名称:	学校教育センター
目的:	本学院の「立学の精神」「学院教育綱領」を踏まえ、「教育目標」の実現に向けて、「教育推進宣言」に掲げた“主体性・論理性・実行力”を培う女子教育を推進する。 1. 質の高い教員・保育士(保育教諭含む)を養成する体制を全学的に組織するとともに、現職の教員・保育士などの研修体制の組織化をめざす。 2. 教員・保育士の実習、採用、研修に関連して、関連教育委員会や保育課、学校園・児童福祉施設などとの連絡を密にし、連携をめざす。 3. 教員・保育士の養成、採用、研修に関連する基礎データを整備しこれを分析することによって、採用状況の変化に対応できる体制を整える。
責任者:	センター長
構成員(役職・人数):	センター長、副センター長(2)、常任委員(6)、特任教授(4)、学校教育センター委員(12)、教職支援課長、教職支援課事務職員(7) 合計 33 名
運営方法:	・常任委員会および学校教育センター委員会を隔週水曜に月2回のペースで実施し、教職課程に係る事項(教職課程運営の基本方針及び組織に関する事項、教職課程カリキュラムと担当者に関する事項、教職課程履修指導に関する事項、教員養成理念・カリキュラムマップ・履修モデル・シラバス・履修カルテ等、教職課程履修に関する説明会やガイダンス、教員就職支援、実習等に係る対応と指導、教育実習及び教職実践演習の履修要件と履修判定)等について、原案の作成、審議・協議・連絡・報告等を行う。審議・協議し、合意した内容は学校教育センター委員が各学科に持ち帰って周知し、各学科の意向による新たな課題があれば委員会にて協議する。 ・事務職員は、実習関係の事務手続きを始め、時間割作成・履修カルテ・課程認定申請や変更届・免許取得判定・教員免許一括申請、教員就職支援などに関する事務を行うとともに、教員と連携して説明会やガイダンスの実施、履修相談、実習中の対応などを行う。また、委員会の資料作成や、決定事項の実施をすすめる。

②

組織名称:	環境共生学部共生学科
目的:	環境共生学科は、人間を含む自然の事物・事象を幅広い視点から捉え、分析・解析技術に裏打ちされた論理的な思考と、積極的な実践力を養成することにより、環境の視点にたって社会に貢献できる人材を育成することを教育目標としている。環境共生学は理科のすべての科目を含むため、環境や生物が直面している課題を解決する方法論を選択できる幅広い視野を持つための学問を履修し、多面的な問題解決能力をもつ理科教員を育成する。一方で環境課題は長期的かつ広範囲な対応が必要であり、自ら取り組むだけでなく教育者として後進の指導にあたり、対話を通して課題に対応できる教員の養成を目指している。
責任者:	学部長
構成員(役職・人数):	学部長、学科長、幹事教授、学科所属教員 合計 16 名
運営方法:	月1回定例の学科会議を開催し、教員養成に関わる予算・人事・カリキュラム・学生指導等、学科の運営と学生の支援を中心に協議検討を行う。教育に関する内容については、学科教育改革推進委員会を設置し、より良い教育のあり方を、学部長、学科長、幹事教授、教務委員等の教員が詳細な検討を行う。教職課程履修学生に対する学習面の支援については、学校教育センター委員が中心的役割を担い、クラス担任、配属研究室の指導教員と連携しながら、日々の悩みごと相談はもとより、学生の進路希望に応じた支援をきめ細かく実施する連携体制を整える。

様式第7号イ

(2) (1)で記載した個々の組織の関係図



Ⅱ. 都道府県及び市区町村教育委員会、学校、地域社会等との連携、協力に関する取組

(1) 教育委員会との人事交流・学校現場の意見聴取等

- ・自治会での鳴尾老人大学への教員派遣、学校等への出前授業や高大連携授業を通じて、学校や地域社会と連携・協力している。
- ・教育委員会との人事交流についても、教育委員会職員の大学教員への起用の他、大学教員が各市町村の委員会委員の任務に就く等の人事交流がある。

(2) 学校現場における体験活動・ボランティア活動等

取組名称:	学校園ボランティア活動
連携先との調整方法:	・教育委員会や学校園からの依頼を受けてボランティアの紹介を行い、学生に推奨している
具体的な内容:	・週1回以上など継続的なボランティア活動 ・学校園(保育所・施設等含む)での教員の補助、学習指導補助など受入先の希望により様々な内容で活動

Ⅲ. 教職指導の状況

- ・入学時に実施するオリエンテーションでは、教職課程のカリキュラムや履修について学科で詳細に説明している。また、教職を希望する学生に対して、学校教育センターが教職課程履修の手続きや履修方法などについて詳細に説明をおこなっている。1年生前期の「環境共生学入門(学習設計)」において各自のキャリアに沿った履修設計の指導を実施する。
- ・教職課程履修者には、履修モデル及び履修カルテにより、教職課程履修者自らが自己評価と履修履歴の確認を行いつつ、堅実に教職への道を歩み続けるよう定期的に授業担当教員が指導している。また、(1)の組織で各学科に周知された内容は、各学科の学校教育センター委員及びクラス担任や所属研究室の指導教員を通して学生に周知され指導される。
- ・学校教育センターでは、教職課程に係る全学的履修指導、教職課程カリキュラムの編成、教職課程シラバスや履修カルテの運用、教育実習実施に関する業務など、(1)①で記載した内容の業務を行っており、それらに係る説明会やガイダンスを定期的の実施し、学生への指導を強化するとともに、日常的に履修から教員採用試験に至るまで学生からの教職に関する様々な質問や相談に対応している。
- ・教員採用試験等対策としては、教育委員会による採用試験受験説明会の実施、合格者による試験対策の勉強方法や、教職現場で活躍する卒業生の話を聞く会などを実施するほか、教員採用試験を受験する全学生に対して、学校教育センターの特任教授や各学科の教職担当教員が中心となって採用試験対策講座を実施している。
- ・学校教育センターがある学校教育館には、各都道府県の問題集や教員採用に関する書籍や雑誌を設置して、勉強しやすい環境を整えている。また、日頃から、各教員が進路相談にも随時対応し、教員就職に向けて開かれた体制をとっている。

様式第7号ウ

＜環境共生学科＞（認定課程：中学一種（理科））

（1）各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	①中高教職課程を履修する動機と目的を理解する。 ②教職並びに中高教職課程の特質と概要を理解する。 ③中学教科「理科」に関する専門的知識（化学・生物学）を修得し、「理科」の内容との関連性について自主的に探究する方法を身につける。
	後期	①公教育の理念・思想と制度・行政・経営システムを中心に、それらの基礎的知識及び技能を修得する。 ②学習者の心理と学習のメカニズム（発達と障害を含む）に関する基礎的知識を修得する。 ③中学教科「理科」に関する専門的知識（化学・生物学・地学）と技能・実験法（物理学・化学・生物学）を修得し、「理科」の内容との関連性について自主的に探究する方法を身につける。
2年次	前期	①教育課程の基本構造と教育実践との関連性を理解する。 ②教職実践力の基礎となる教育の理念・目的・内容・方法・対象理解・制度・経営について、基礎知識を包括的に修得する。 ③人間の発達と障害に関する基礎的知識を修得する。 ④中学教科「理科」に関する専門的知識（物理学・化学・生物学）を修得し、「理科」の内容との関連性について自主的に探究する方法を身につける。中学理科指導法の基礎を学び、指導案の作成・模擬授業を通して授業実践力を修得する。
	後期	①道徳教育および人権教育の目的・内容・方法等について、実践の観点から理解する。 ②一人一人の生徒の人格を尊重した生徒指導や、生徒の意欲や適性を考慮した進路指導に必要な知識・技能を身につける。 ③情報通信技術（ICT）の活用と理論を理解する。 ④中学教科「理科」に関する専門的知識（化学・生物学）と技能・実験法（物理学・地学）を修得し、「理科」の内容との関連性について自主的に探究する方法を身につける。中学理科指導法の基礎を学び、指導案の作成・模擬授業を通して授業実践力を修得するとともに、教材分析や授業構想のための知識・技術を身につける。
3年次	前期	①カウンセリングを含め、教育相談の理論と方法を、実践的な観点から理解する。 ②特別な配慮を要する生徒への対応方法をも含め、授業方法・学級経営等に関する基礎的・実践的知識と技能を修得する。 ③中学理科指導法の基礎を学び、指導案の作成・模擬授業を通して授業実践力を修得するとともに、中学「理科」の授業を構想・実践・省察する一連の授業実践研究の方法と態度を身につける。
	後期	①総合的な学習・探求及び特別活動の意義を理解し、その特質を踏まえた指導に必要な知識、及び技能を身につける。 ②教育実習の目的や計画・内容等を理解する。 ③中学教科「理科」に関する技能・実験法（化学・生物学）を修得し、「理科」の内容との関連性について自主的に探究する方法を身につける。中学理科指導法の基礎を学び、指導案の作成・模擬授業を通して授業実践力を修得するとともに、中学「理科」の授業を構想・実践・省察する一連の授業実践研究の方法と態度を身につける。
4年次	前期	①教育に関する理念・思想・歴史を中心に、それらの基礎的知識を修得する。 ②教育実習生は、教育実習体験を通して、教職の使命感や責任感、実践力を修得し、教職に必要な資質能力を形成する。 ③これまで蓄積してきた環境共生学の専門領域における知識と中学教科「理科」の内容とを有機的に関連させ、質の高い教育実践を目指す意識と態度を身につける。
	後期	①「教職実践演習（中高）」を通して、反省事項や今後の研究課題につき、明らかにするとともに、教職への志望を再確認する。 ②これまでに蓄積してきた環境共生学の専門領域における知識と中学教科「理科」の内容とを有機的に関連させ、質の高い教育を実現することのできる意識と態度および行動力を身につける。
	通年	①「教職実践演習（中高）」を通して、反省事項や今後の研究課題につき、明らかにするとともに、教職への志望を再確認する。 ②これまでに蓄積してきた環境共生学の専門領域における知識と中学教科「理科」の内容とを有機的に関連させ、質の高い教育を実現することのできる意識と自信を確立する。

様式第7号ウ

＜環境共生学科＞（認定課程：高校一種（理科））

(1) 各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	①中高教職課程を履修する動機と目的を理解する。 ②教職並びに中高教職課程の特質と概要を理解する。 ③高校教科「理科」に関する専門的知識（化学・生物学）を修得し、「理科」の内容との関連性について自主的に探究する方法を身につける。
	後期	①公教育の理念・思想と制度・行政・経営システムを中心に、それらの基礎的知識及び技能を修得する。 ②学習者の心理と学習のメカニズム（発達と障害を含む）に関する基礎的知識を修得する。 ③高校教科「理科」に関する専門的知識（化学・生物学・地学）と技能・実験法（物理学・化学・生物学）を修得し、「理科」の内容との関連性について自主的に探究する方法を身につける。
2年次	前期	①教育課程の基本構造と教育実践との関連性を理解する。 ②教職実践力の基礎となる教育の理念・目的・内容・方法・対象理解・制度・経営について、基礎知識を包括的に修得する。 ③人間の発達と障害に関する基礎的知識を修得する。 ④高校教科「理科」に関する専門的知識（物理学・化学・生物学）を修得し、「理科」の内容との関連性について自主的に探究する方法を身につける。高校理科指導法の基礎を学び、指導案の作成・模擬授業を通して授業実践力を修得する。
	後期	①道徳教育および人権教育の目的・内容・方法等について、実践の観点から理解する。 ②一人一人の生徒の人格を尊重した生徒指導や、生徒の意欲や適性を考慮した進路指導に必要な知識・技能を身につける。 ③情報通信技術（ICT）の活用と理論を理解する。 ④高校教科「理科」に関する専門的知識（化学・生物学）と技能・実験法（物理学・地学）を修得し、「理科」の内容との関連性について自主的に探究する方法を身につける。高校理科指導法の基礎を学び、指導案の作成・模擬授業を通して授業実践力を修得するとともに、教材分析や授業構想のための知識・技術を身につける。
3年次	前期	①カウンセリングを含め、教育相談の理論と方法を、実践的な観点から理解する。 ②特別な配慮を要する生徒への対応方法をも含め、授業方法・学級経営等に関する基礎的・実践的知識と技能を修得する。 ③高校理科指導法の基礎を学び、指導案の作成・模擬授業を通して授業実践力を修得するとともに、高校「理科」の授業を構想・実践・省察する一連の授業実践研究の方法と態度を身につける。
	後期	①総合的な学習・探求及び特別活動の意義を理解し、その特質を踏まえた指導に必要な知識、及び技能を身につける。 ②教育実習の目的や計画・内容等を理解する。 ③高校教科「理科」に関する技能・実験法（化学・生物学）を修得し、「理科」の内容との関連性について自主的に探究する方法を身につける。高校理科指導法の基礎を学び、指導案の作成・模擬授業を通して授業実践力を修得するとともに、高校「理科」の授業を構想・実践・省察する一連の授業実践研究の方法と態度を身につける。
4年次	前期	①教育に関する理念・思想・歴史を中心に、それらの基礎的知識を修得する。 ②教育実習生は、教育実習体験を通して、教職の使命感や責任感、実践力を修得し、教職に必要な資質能力を形成する。 ③これまで蓄積してきた環境共生学の専門領域における知識と高校教科「理科」の内容とを有機的に関連させ、質の高い教育実践を目指す意識と態度を身につける。
	後期	①「教職実践演習（中高）」を通して、反省事項や今後の研究課題につき、明らかにするとともに、教職への志望を再確認する。 ②これまでに蓄積してきた環境共生学の専門領域における知識と高校教科「理科」の内容とを有機的に関連させ、質の高い教育を実現することのできる意識と態度および行動力を身につける。
	通年	①「教職実践演習（中高）」を通して、反省事項や今後の研究課題につき、明らかにするとともに、教職への志望を再確認する。 ②これまでに蓄積してきた環境共生学の専門領域における知識と高校教科「理科」の内容とを有機的に関連させ、質の高い教育を実現することのできる意識と自信を確立する。

様式第7号ウ（教諭）

＜環境共生学科＞（認定課程：中学一種(理科)）

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第6条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	教職入門	基礎化学		日本国憲法	情報リテラシー
			基礎生物学			基礎環境工学
					英語コミュニケーションI, II	環境共生学入門(学習設計)
	後期	教育原理	合成化学		スポーツと栄養	データ分析・統計学
		教育行政学	生命情報科学			社会連携プロジェクトI
		教育心理学	生態学		データリテラシー・AIの基礎	
			細胞生物学			
			地球科学			
			基礎実験			
2年次	前期	理科指導法Ⅰ	物理学と環境工学		スポーツ実技(軽スポーツ)	バイオマスエネルギー学
		発達心理学	環境生物有機化学			環境イメージング技術
		教育課程論総論	分析化学			社会連携プロジェクトII
		教育方法の理論と実践	高分子化学			
			環境微生物学			
			バイオテクノロジーI(分子生物学)			
	後期	理科指導法Ⅱ	機器分析学			環境教育論
		生徒指導・進路指導	植物生理学			バイオテクノロジーIII(細胞工学)
		ICT活用の理論と実践	バイオテクノロジーII(遺伝子工学)			生命と地球環境
		道徳教育指導論	地学実験			プロジェクトコミュニケーションI
			物理学実験			
3年次	前期	理科指導法Ⅲ			環境英語演習(留学プログラム)	バイオマス活用工学
		特別支援教育論				資源循環工学
		教育相談の理論と方法				プロジェクトコミュニケーションII
	後期	理科指導法Ⅳ	環境技術実験			高機能材料工学
		総合的な学習の時間と特別活動				
		教育実習事前指導(中高)				
4年次	前期	教育史				
		教育実習Ⅰ・Ⅱ(中高)				
	後期	教職実践演習(中高)				
	通年	教育実習事事後指導(中高)				

様式第7号ウ（教諭）

<環境共生学科>（認定課程：高校一種（理科））

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次						
年次	時期	各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第6条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
1年次	前期	教職入門	基礎化学		日本国憲法	情報リテラシー
			基礎生物学			基礎環境工学
					英語コミュニケーションI, II	環境共生学入門（学習設計）
	後期	教育原理	合成化学		スポーツと栄養	データ分析・統計学
		教育行政学	生命情報科学			社会連携プロジェクトI
		教育心理学	生態学		データリテラシー・AIの基礎	
			細胞生物学			
			地球科学			
			基礎実験			
2年次	前期	理科指導法Ⅰ	物理学と環境工学		スポーツ実技（軽スポーツ）	バイオマスエネルギー学
		発達心理学	環境生物有機化学			環境イメージング技術
		教育課程論総論	分析化学			社会連携プロジェクトII
		教育方法の理論と実践	高分子化学			
			環境微生物学			
			バイオテクノロジーI（分子生物学）			
	後期	理科指導法Ⅱ	機器分析学	道徳教育指導論		環境教育論
		生徒指導・進路指導	植物生理学			バイオテクノロジーIII（細胞工学）
		ICT活用の理論と実践	バイオテクノロジーII（遺伝子工学）			生命と地球環境
			地学実験			プロジェクトコミュニケーションI
			物理学実験			
3年次	前期	理科指導法Ⅲ			環境英語演習（留学プログラム）	バイオマス活用工学
		特別支援教育論				資源循環工学
		教育相談の理論と方法				プロジェクトコミュニケーションII
	後期	理科指導法Ⅳ	環境技術実験			高機能材料工学
		総合的な学習の時間と特別活動				
		教育実習事前指導（中高）				
4年次	前期	教育史				
		教育実習Ⅰ・Ⅱ（中高）				
	後期	教職実践演習（中高）				
	通年	教育実習事前事後指導（中高）				